

# 【2020 年度 審判員の目標】

(公財) 日本ハンドボール協会 審判委員会  
指導委員会

## 1 『審判員の心得 10箇条』

- |             |            |
|-------------|------------|
| ① リーダーシップ   | ⑥ 身体上の適正   |
| ② 誠実さ       | ⑦ ユーモアのセンス |
| ③ ルールに関する知識 | ⑧ 勇気       |
| ④ 冷静さ       | ⑨ 協調性      |
| ⑤ 正しい判断     | ⑩ 仲間意識     |

## 2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

### ハードプレーとラフプレーの見極め（競技規則 8:1 ~ 8:3）

競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係（先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか）と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの**影響**を正しく見極めなければならない。

- ① 防御側プレーヤーが、不利な位置（横や後ろからボールを対象とせず）から攻撃側のプレーヤーに接触を試みたならば、競技規則8の2、8の3の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則8の3（d）の「違反行為の**影響**」を見極める。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失うことなくプレーをしたならば、スピーディーなゲーム展開となるよう、アドバンテージを適用して安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの**影響**を見極めて、罰則を適用するかどうかの判断をする。

### < 研究課題 >

- ◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて検討する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、試合を管理する。
- ◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理する。